

月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

〈EKUTEBIAN-VOL.6, JANUARY, 1989-EKUTEBIAN〉



別刷付録 ♡ 「立川記念日」カレンダー

まい ふおと
■「朝の海」
by 須崎清孝

えくてびあん

あーとさろん

音に魅せられるということがある。特に邦楽の音色は、現代の日本人の心にもよく響く。すっかり西洋化された生活の私たちの胸に強く響く旋律。そこには確かに宿っているものがある。アートの魂が。



俳優陣(写真)・中島登さん

●10才の時、九州から単身東京、内弟子に。あまりの厳しさに何度やめようと思ったか、と。今や陛下の前で演じる芸の牙である。

(若葉町)



相傳・千葉義孝さん

▲東京でも数少ない胡弓奏者の一人。納得のいく音色を求めて糸を張る「駒」も既製品は使わず自分で研究、作成している。(羽衣町)



琴・松本ゆき子さん



尺八・野村椿重さん

●演奏家で製作も。求める音と今の腕と、毎日が葛藤です」と語る言葉に、芸にかける厳しさが。(柴崎町)

●洋楽に憧れつつ進んだ琴の道。宮城道雄師との出会いがその夢を琴の中にかえてくれた、と。(柴崎町)